

「近隣の自然の変化に目を向ける No.14

6月の白い木の花 June white 」 2020年6月19日

5月(No.11)で特集した「清廉で無限を想わせる白 White possibility」では何色にも染まっていない清楚な花であったが、6月に出遭った白い木の花はどれも存在感があり、誇り高い花であった。

先ず第一は、**タイサンボク(泰山木)**。大きな木に肉厚の白花を力強く空に向かって広げて咲く。誰もが見上げてしまう。しかし、下には向かない。次は**クチナシ(山梔子)**。純白の花を美しく広げ、強い香りを放つので、思わず目を向けさせられる。八重種もある。

祇園精舎の鐘の音が響く寺院に咲くという**サラソウジュ(沙羅双樹、別名、夏椿)**。今では公園でも見られる。その小型版が**ヒメシャラ(姫沙羅)**。沙羅は復活・再生を意味する命の木の一つとされている。

カタルパは、芦花公園が誇る花の一つである。徳富蘆花が100数年前に入村した粕谷村に、熊本の徳富記念館から若木を移植されたもので、全国的にも珍しい木である。元々は、明治の始めに新島 襄がアメリカから持ち帰り、熊本の徳富蘇峰に贈った木(**アメリカキササゲ**)から株分けされたもので、カタルパは英語名。かなりの高木になり、見事な花と細長いササゲ(大角豆)をつける。因みに、中国原産のキササゲ(木大角豆、学名：Catalpa ovata)は、花がやや小型である点が異なる。なお2年前に、芦花公園内に**カタルパ保育園**が開設された。

赤い雄しべが特徴的な**フェイジョア**花はの純白でモコとしている(甘いので小鳥が摂食するとか)。その近くに**チンシバイ(珍至梅)**が大きな手を広げていた。よく見ると一つ一つの花が刺繍のように美しい。

吉野 輝雄

http://sengawacx.com/LookNatureN014_2020.jpg